

健康文化

## 高齢化社会への対応

加藤 賢一

21世紀の高齢化社会を明るく活力に満ちた長寿社会にするため、愛知県では、保健・医療・福祉及び生きがいの総合施設「あいち健康の森」の整備推進を図っているところであります。

あいち健康の森は、昭和62年6月に基本構想が、平成元年3月に基本計画がまとまり、約100ヘクタールに及ぶ広大な地域を研究・健康・運動・生きがい及び福祉ゾーンの5つのゾーンに区分して整備することとしております。

平成元年11月には、あいち健康の森の中核となる研究ゾーンに、老年学の全国的な研究施設として、国立の長寿医療センターの立地が決まり、平成4年度には、その長寿医療センター（延床面積約8,154平方メートル）が国立療養所中部病院の敷地内で建設が着工され、平成7年度の運営開始に向け工事が進められております。

県が整備するあいち健康の森公園は、運動ゾーン及び健康ゾーンとして区分された52.1ヘクタールで、建設省の地域活性化拠点公園テーマパーク（健康と長寿）として整備しており、公園の施設配置、景観計画を中心に調査研究し、県下10番目の都市公園として特色ある施設を整備することとし、平成5年度は沈砂池等の造成工事に取りかかることとしております。

また、公園の中で整備を計画しております健康づくりの総合施設、健康開発センター、健康科学教育館、中央管理センター及び滞在型学習施設の4つの施設を複合化した施設として基本設計を終え、平成5年度は実施設計を行い、平成6年度から建設に着工し、平成9年度に運営の開始を予定しております。

さらに、平成9年度から平成12年度までに整備をしようとしております民間主導による生きがいゾーン及び福祉ゾーンにつきましては、整備手法の検討や事業主体の調整を進めているところであります。

このあいち健康の森は、JR東海の大府駅から又は車の場合は、知多半島道路の大府インターチェンジからが便利となりますので、あいち健康の森のシンボル道路として、健康の森線（幅員20メートル）という新設道路を交通の便を考え整備するとともに、上下水道の整備も進めております。

いずれにいたしましても、21世紀の健康を支え、育てるのが「あいち健康の森」の役目でありますので、皆様に期待され多くの方々に利用していただけるよう、平成12年度の全体の完成をめざして整備を推進していきます。

(愛知県衛生部健康の森推進局次長)

